

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800063		
法人名	医療法人社団 水澄み会		
事業所名	グループホーム もやいの家 ひきみ		
所在地	島根県益田市匹見町匹見イ50-1		
自己評価作成日	令和3年3月4日	評価結果市町村受理日	令和3年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和3年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①自然の中であるべく散歩や外気浴を取り入れる。 ②運動する機会を①と合わせて設ける。(生活のメリハリ) ③季節の食材を取り入れ、(山の山菜等)、四季を感じる食事の提供を目指している。 ※季節を感じながら、メリハリのある生活(運動・食事・睡眠)を目指している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の中心からは距離があり、買い物等の不便さはあるが、自然豊かな静かな場所にあり、近くに消防署や学校などがある町の中心に位置している。同じ建物に有料とデイサービスがあり今までは、交流の機会も多かったが今年度は難しかった様子が伺えた。その中でも精神面の刺激になるよう、2F建ての利点を生かして、広いベランダから景色を眺めたり、運動をしたりと気分転換に繋がるよう機会を増やしている。職員は毎年理念に基づいた個人目標を掲げており、半期で見直し、年度末にはまた次年度に繋げている。新人職員教育や幅広い研修もグループ全体で取り組み、個々のレベルアップも図られている。この地域での歴史もあり、限られたサービスでもあるので、発信の機会を増やすことで、地域との関わりを深め、色々な面で協力が得られるように繋げていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 s	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、会議を実施し、事業所目標に即したレジュメを使用し、確認を行っている。	グループ全体の企業理念、方針を基に各事業所の目標を作成し個人目標に繋げている。新規職員にはエリア内の役職者が講師となり、理念、接遇等の研修を実施している。中途採用の場合も管理者から考え方を伝えるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に溶け込んでいけるように、町内掃除の参加、産業文化祭への作品出展を行っている。	今までは地域行事への参加、交流を行っていたが、コロナの為大半が中止となり、今年度はできていない。	事業所全体で地域との交流が増やせるよう検討いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、お祭り等の行事は参加や、開催ができなかったが、お祭り等で、実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度、コロナウイルス蔓延防止のため、集合しての開催は行えなかった。(3月末の最終回は包括支援センター職員と行う予定)1回目は状況報告を行い、ご意見を頂いた。2回、3回目は、写真で活動を報告した。	今年度はコロナの為事業所内での会議は開催していない。入居者の様子や行事、事故等の報告を行い、意見を得るように送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	変更申請や、入院時等、行政に報告・連絡を行っている。	これまでは運営推進会議に毎回参加があり助言を得ていた。特に支所の保健師からは問い合わせが多く情報を共有している。地域ケア会議や認定調査での関わりもあり、いい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を年4回実施し、理解するようにケアに向き合っている。	周辺の事業所の管理者が月に1回集まり会議を開催している。虐待を含めて身体拘束や感染予防、安全衛生等を議題とし、内容を各事業所に持ち帰り報告している。身体拘束のないケアを実践しており、具体的事例を基にするなど理解しやすいように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会は実施しているが、活用事例はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、一緒に読み合わせを行い、契約を交わさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、お客様アンケートを実施している。	年1回の家族会の開催にアンケートも実施していたが、家族会はコロナで中止。アンケートは行い結果を公表している。面会を中止しているので、日頃の様子を写真で撮り家族に送り意見を得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中で、意見や提案を聞いている。	理念に沿った個人目標を作成しており、進捗状況の確認も含めて、半期に1回、最終確認の為に年度末と、年2回の個人面談の機会を持っている。管理者はその他にも必要と認められた時には面会の機会を増やして対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時、個々に負担がかからないように作成。目標管理シートや面接にて評価を行っている。労働契約書の取り交わし時、確認を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修～研修の進め方へ、リモートにて参加する。外部研修は、益田保健所主催による、コロナ感染症に対する予防対策の研修会へ参加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	益田市内に、GH部会があるが、今年度は3密を避けるため、活動休止。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時、ご本人の思いをお聞きし、取り入れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランにて反映。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗い、洗濯物干しや居室掃除を一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なかなか面会の機会を設けるのが難しいなか、電話で会話していただいたり、ベランダからの面会を実施した。生活の写真の送付実施。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出は、病院受診や誕生日外出等を行っているが、現状、コロナ関連でなかなか難しい状況にある。	これまでは面会も多く、近所の方が立ち寄り、施設内のデイサービスの方との交流も多かったが今年ができない状況。美容は地域から訪問でしてもらっている。神楽好きの方はケーブルテレビで楽しまれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループで食器拭きをしたり、全員で、食前体操を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の荷物の取り扱いや、利用時のお写真をお渡ししたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活のかかわりの中でお話をお聞きし、意向反映に努めている。	普段の生活の中で関心を示されることを取りあげるようにしている。覚えておられたレシピで羊羹作りに挑戦したり、料理好きの方は一緒に作業に取り組むように計画している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・本人より聞き取りを実施。また、前担当のケアマネにも情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入眠時間、起床時間、排尿パターンをはじめ、この時間には不安な症状が現れる等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご意向を電話や来所持に確認し、ケアプランに盛り込んでいる。	今年度に関しては関係者が集合して担当者会議を開催することができなかったため、電話等で意向を聞き計画を作成し了解を得る形をとっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に、起こった事象や発現等を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば、誕生日なので、自宅で昼食を家族で撮りたい等のご要望にお応えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行きつけの美容院のご利用や、地域内散歩を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のDrによる往診や、緊急時や休日も対応してくださる体制になっている。	今までのかかりつけ医を継続することも、往診可能な事業所のかかりつけ医に変更することも可能になっており、入所時に決めるようになっている。事業所のかかりつけ医は緊急時の対応も可能で家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に、2名の看護師がおり、相談・アドバイスをうけることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送協力病院が、益田赤十字病院となっており、相談員とリハビリの進み具合や、食事量など意見交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時(契約時に)、終末を迎えられた場合、緊急時の蘇生について確認している。	昨年末に急変から死亡したケースがあり事業所で看取っている。今後に於いても本人、家族関係者の希望があれば、その都度話し合いの機会を持ちながら対応を検討する意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの場所の把握は行っている。 実際、急変が起こったとき(夜間一人対応時)は、玄関開場し、近隣の職員へ連絡する体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、お客様参加型の避難訓練(1回は職員立ち合い)にて実施している。	すぐ近くに消防署があり立ち合いのもとに避難訓練を実施している。消防署からは集合して建物2Fへの垂直避難の指示を得ている。夜間は有料6床の方が加わることもあり、近い職員の協力等合同避難訓練で対応できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な声掛けを心がけている。 プライバシーについても、着替えや入浴の居室での個別対応を実施を徹底している。	年間研修計画を作成し、接遇研修等を行っている。言葉使いなど気になる場面がある場合は、職員全体のこととして捉え検討するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	カットや、髪染めの希望の尊重、あらゆる場面で選択していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	手作業や、生活場面でのお誘い(食器拭き)の声かけはさせていただくが、自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えが自立の方は、選択は本人にお任せしている。職員が準備する場合も、選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(野菜のカット・盛り付け)を職員と一緒にしている。	調理好きの方が多く、洗う、切る、味を見る、盛り付け、食後の片付けなど、入所者同志で仕事を振り分け、職員と一緒にしている。店が遠い為配達を利用しながら、3食作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食量の把握、刻み食の方の把握ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台にて、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけでトイレ誘導を行う方、ご自分で履き替えて、居室のゴミ箱に廃棄される方等、把握をしている。	紙パンツにパット使用の使用者が多いが自立している方が殆ど。声かけが必要な方もあり個々に合わせた対応を摂っている。夜間などは尿量に合わせてパットを使い分け不快にならないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時、ヨーグルトをお出しし、バナナを入れたり、ジャムを入れたりしている。天気の良い日には外気浴を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴機会を衛生的に確保できるよう、順番は決めているが、声掛けをさせていただき、本人様の意思を尊重している。	週2回のペースで毎日午後入浴としている。入浴間隔を見ながら声がけしている。家庭用の浴槽であまり広くはないが、1対1の介助でゆっくり入れるようにしている。風呂嫌いの方もあり、工夫しながら入れるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間は職員が決めず、ご本人が自由に居室と食堂を往来されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳に情報を貼り、把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	美容師をされていた方は、髪をとかれたりしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見やドライブを取り入れている。周辺の散歩も希望時行っている。(分遣所で話を聞いてもらったりもある。)が、春以降行っていない。	今年はコロナで多くは中止になっているが、紅葉狩りは車から降りずドライブで楽しんだ。2Fのベランダに出ることができるので、天気の良い日には周辺の景色を眺めたり、歩行訓練をしたり、気分転換のいい機会になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご希望者がおられないので所持されている方はいらっしゃらないが、必要時は、立替金にて使用できる仕組みがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話できる環境にあり、ケアプラン説明同意時等、本人様に電話を替って話される。また、どうされているか電話でご家族から問い合わせがあった時も話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけを、一緒に行っている。寒い地域なので、温度調節はこまめに行っている。	グループ自体が2Fにあるため窓からはいつでも景色を眺めることができ、四季の移り変わりが実感できる。道路に面しているが交通量も少なく静か。寒い地域のため廊下も冷えるためファンヒーターで補っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーに座って話されたり、マッサージチェアに座って過ごされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使い慣れたもの、服、棚等を持参していただいている。	大き目のクローゼットがあり収納できるので、あまり多くの物は置かれていないが、テレビ、テーブル、タンス、衣装ケース等持ち込まれている。写真を飾ったりして落ちつけるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	直線廊下に手すりがついており、安心した環境で介助なく歩行されている。トイレにはマークを貼っている。		